



昔、理科の「雪がとけると〇〇になる」というテスト問題で、正解は「水」なのですが、「春」と答えた子どもがいたそうです。

「春」——正解よりも味わい深い答えです。

高知県へ向かう遠足のバスの中で、6年生の子どもたちが、クイズを出し合っていました。

「大きくなるほど小さくなるものなあに？」

正解は「服」なのですが、私のそばにいた男の子は、「『遊び心』よな。絶対。」と言っていました。

「遊び心」——これも、正解よりも味わい深い答えだと感じました。

味わい深い6年生の遠足のひとこまです。

高知県 遠足道中記

午後に訪れた高知県立牧野植物園で、生い茂る草の一つ一つに名札が付けられている(右写真)のを見て、ある男の子が言いました。

「これ、適当な雑草に名前を付けとるだけとちがうん？」

私は答えました。

「逆やで。元から名前があるのに、みんなが『雑草』って呼んでいるだけやで。」



「雑草という名の草はない」という言葉は、牧野富太郎さんの言葉として知られています。生涯、植物と向き合った牧野さんは、一つ一つの草花を大切に、その多様性を尊びました。牧野さんの業績を称えた植物園で、子どもたちからそれを考えさせるような言葉が出てきたのも、不思議な縁を感じます。



昼食時には、木陰にビニールを敷いた後に、その木の幹が一風変わっていることに気付いた子がいました。言われてみると、確かにあまり見ない幹をしています(左写真)。

「サルスベリはこんな感じやけど……。でもちょっとちがうなあ。」と言いながら名札を見ると「シマサルスベリ」とありました。

子どもたちは、自然の中で、このような小さな疑問をたくさんもちながらいろいろなことを学んでいくのでしょうか。興味は学びの始まりです。

その後も園内を散策し、子どもたちは「これぞ『ザ・自然』やなあ。」と感心しながら歩いていました(右写真)。湧き出る

清水の美しさに、見たこともないほど大きな竹の太さに驚きながら。

再びバスの中でのこと。

遠足の翌日の23日が誕生日の女の子がいて、バスの中ではみんなで「Happy Birthday to You」を歌って祝いました。6年生のみなさんも、これから年を重ねても、遊び心を忘れず、いろいろな物事に興味をもちながら成長してってください。

